

8月の「どんぐりsカフェ」

里山の森づくり、まず楽しさ体験して

再開第2弾の「どんぐりsカフェ」は8月21日、「楽しさいっぱい里山づくり～高森山の森づくりを考える～」と題し、森林インストラクターの眞弓浩二さんが講演、里山整備の大切さと楽しさを解説した＝写真。

高蔵寺ニュータウンは、もともと里山地帯に造設された。その名残として、ほぼ中央に高森山がある。眞弓さんによると、里山は村落の生活と結びつき、日本の農村のいたるところにあった。雑木を伐採し燃料のマキを集めるなど人の手が入ることで植生の多様性が保たれていた。

役員会から（8月21日）

●どこまで続くぬかるみぞ……。コロナ感染の猛威が一向に収まらない。どころか、8月に入り急増し、愛知県も緊急事態宣言が発出された。春日井市の感染者が80人を超す日が目立つようになった。●楽農会の秋の主要行事である「芋煮会」は、昨年に続き2年続きの中止になりそうだ。毎年盛り上がる親睦会や忘年会も開かれそうにない。11月20日予定の「高森山で紅葉を見よう会」も開催できるか心配だ。同月6日に樹名板を子供たちと一緒に作成するワークショップをグルッポふじとうでUR都市機構中部支社と共催する予定だが、緊急事態宣言が出ていれば中止となりそうだ。●1年半ぶりに再開した「どんぐりsカフェ」は7月の参加者が34人、8月が28人と盛況だった。12月の再開第3弾の内容を役員会で検討したが、講演会方式でなくダンス観賞など楽しい集いになった。ともかく、なんとかコロナ感染が収まってくれないか。



1960年代ごろから、家庭の燃料がガスや灯油に代わりマキを取ることがなくなり、里山がいたるところで荒れ始めた、という。里山には①水源涵養②生物多様性保全③炭酸ガスの吸収、固定などの大切な役割がある。これらの機能も放置されると衰退する。

高森山は、大規模住宅団地に残る貴重な里山。50年ほど前に山火事でハゲ山になっていたが、小学生らも加わった「ドングリ作戦」でどんぐりを植えるなど緑化に成功した。しかし、その後は整備が不足し、人が入り難いヤブ状態になってしまった。このまま放置すれば、植生の多様性がなくなり、常緑樹だけの密集した暗い森となり虫たちも少なくなる。3年前から「どんぐりs」傘下の「魅力ある高森山公園をつくる会」が、雑木を伐採し「子供たちが遊べる明るい森づくり」を目指していることを高く評価した。

しかし、「後継者をつくるなどと思っただけでは若い人に避けられる」と釘を刺す。「若い人たちに、森を整備する楽しさを体験してもらうことが大切。雑木を伐りいろんな花が咲くような環境を作る醍醐味を知れば、すぐには無理でも、いずれは森の整備に参加してくれる。森を楽しむことが大切」と強調した。（明賀 雄二）

旧西藤小学校の活用構想固まる カフェや高齢者施設も

旧西藤小学校の跡地利活用構想が、このほど固まった。春日井市の事業者公募審査で、「集う笑う繋がる『健康』なまちづくり」をテーマとする「NPO法人まちのエキスパネット」の構想案が採用された。新施設は2024年春にグランドオープン予定だ。

構想の狙いは、子供や年寄り、障がい者、健康者など誰もが、軒下で気楽におしゃべりするような、楽しく集う「まち」づくり。具体的な施設は、「たまりばカフェ」や障がい者の居宅介護事業などの福祉事業所、健康相談もできる薬局、フィットネスジム、各種病院、障がい者グループホーム、看護師が常駐し安心して住め

私の朝・昼・晩

不思議に満ちたミツバチの世界

野生のニホンミツバチは社会的な行動が面白く不思議に満ちている。今春、無農薬の果樹園の一角を借りて巣箱を置いてみた。暫くして数匹のミツバチが巣箱の中を点検にやって来た。しかし、群を引き連れての入居とはならない。諦めかけていた5月下旬、近くにいた友人から「凄いことになってるから早く来てー！」との連絡。急行すると、今まさに引越中の数千のミツバチの大群飛を観る事ができた。

毎日、日の出から日没まで子育ての為に花の蜜や花粉を集めるミツバチ。今は天敵スズメバチとの闘いだ。いつも殺られっぱなしかと思っていたら、襲ったスズメバチが返り討ちにあっていた。ミツバチがスズメバチを団子状に囲んで体から発した熱で昇天させたのだ＝写真。

野菜や果物・草木の結実に欠かせないミツバチには他にも沢山の敵がいます。しかも、巣を造るのに適した老大木の樹洞は極めて少ない現状です。さあ、次はあなたも巣箱を作って応援してみませんか。 (山口 正恵)



る高齢者住宅など。

このほか、駐車場の屋根に太陽光発電パネルを設置し電気を自給自足することも考えている。中心部には、おしゃべりなど誰もが楽しく利用できる憩いの広場「ノキシタプレイス」を設ける、としている。

高森山の樹木ガイドブックを作成

{どんぐりs} 傘下の「魅力ある高森山公園をつくる会」が、高森山の樹木ガイド本「高森山この木なんの木」(＝写真)を作成した。散策路を歩く際に、樹木の名前や特徴を知る手助けをするための本で、周辺の小学校などに配布するほか、秋の「高森山で紅葉を見よう会」などのイベントで参加者に配布する。

本は持ち歩きやすいA5版、12ページ。高森山に生える主要な22種類の樹木を樹形や葉、実の写真付きで紹介。見分ける特徴や名前のいわれなどきめ細かく解説している。



楽農会が庄内川河川敷を一斉清掃

8月31日朝、楽農会が畑直下の庄内川河川敷の一斉清掃を行なった。猛暑の中、9人の会員が参加、長雨の増水で流れ着いたプラスチックなどのゴミ類を可燃ゴミ10袋、不燃ゴミ6袋を回収した。ゴミの消えた河川敷は、爽やかな憩いの場となった。今後とも、「美しい玉野を守る会」及び庄内川河川事務所と連携し、地域の自然環境保全に努めていきたい。

すまい困りごと無料相談

- 電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956 (長谷川)
面接相談会日；9月18日(土) 10月16日(土)
(ともに13:30~16:00)
会場；東部ほっとステーション
(サンマルシェ南館1階)

ハート・ほっと・ルーム

- 日時；9月26日(日)、10月24日(日)
(ともに13:30~17:00)
会場；東部ほっとステーション
参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393(浪川)